

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1408	学校名	亀田小学校	校長名	渋谷 徹	作成者名	福原 啓介
学校教育推進サポート担当者名			教務主任	福原 啓介		電 話	025-381-6124

1 実践のテーマ

学校の教育ビジョン具現に向けたカリキュラム・マネジメント
～「総合的な学習の時間」の新単元「夢中」の創設～

2 テーマ設定の理由

当校の児童は、概して素直であり、決められたことはやろうとする。しかし、その一方で、経験したことのない新たな活動に挑戦したり、自分の思いや考えを人に伝えたりすることに弱さと苦手意識を抱えている。

昨年度、教育目標を「まっすぐ伸びる」から「未来を拓く」へと変えた。20年ぶりの改定である。全員が一つのゴールに向かってまっすぐ進んでいく教育から、自ら選んだ道を力強く切り拓いていく教育へと転換するためである。児童が生きていく未来社会は、これまでの社会の延長線上にはないからである。

この新教育目標の下、「挑む」「伝える」「高め合う」という三つの重点目標（資質・能力）を設定し、この教育ビジョン具現に向けて全ての教育活動を推進している。校務分掌には「三亀プロジェクト（学部・結部・遊部）」という三つの重点目標達成のためのプロジェクトを位置付け、創意ある教育活動を展開している。

今年度は、「総合的な学習の時間」の再編によって、新しい単元「夢中」を創設し、教育ビジョン具現に向けたカリキュラム・マネジメントの核としたい。教科横断的かつ探究的な学びを目指す新単元「夢中」は、スポーツに例えれば「試合」であり、各教科等は「トレーニング」に当たる。この両者を往還させた学びによって、児童に「挑む」「伝える」「高め合う」の三つの資質・能力を育成し、力強く「未来を拓く」児童の育成を目指したい。

3 実践内容

「挑む」「伝える」「高め合う」の三つの資質・能力を育成するため、「総合的な学習の時間」の新単元「夢中」を次のような構想で計画・実践する。

- (1) 3年生から6年生の異年齢のメンバーで学習集団を編成する。
- (2) 本単元では、一人一人の児童が自分で決めたテーマに向かって探究的に学び、成果物をクリエイトする。
- (3) クリエイトした成果物（プログラム、プレゼンテーション、ムービー、テキスト、デザイン・アート、アニメーション、ミュージック等）を完成させることを本単元のゴールとする。学びのキーワードは「コンテンツの消費からコンテンツの生産へ」である。
- (4) 3年生以上の学級担任がジェネレーター（共に活動する役割）となって指導に当たる。
- (5) 地域人材を含む外部人材を可能な限り積極的に活用する。

4 実践計画

実施時期	実施内容	
	教 師	児 童
4月	単元「夢中」の構想検討と計画立案	「学び」のゴール認識とテーマ探し
6月	児童へのオリエンテーション	
7月	児童の自己テーマ仮決定	

10・11月	単元計画の確認と修正	テーマと表現方法の決定と自主学習
12・1月	授業実践	成果物完成に向けたクリエイティブ活動
2月	先進校視察（総合的な学習における探究的な学び）	成果物完成に向けたクリエイティブ活動
2月	授業実践・市内小中学校教員に向けての授業公開（全4回）	成果物完成に向けたクリエイティブ活動 成果物発表会
2月	成果と課題の整理・次年度に向けた単元計画修正	

5 成果

(1) 職員の授業に対する意識の変容

「夢中」単元が始まる前の8月と12月に、職員アンケートを実施した。『夢中の活動に取り組むにあたり、児童の学ぶ姿に対して期待感がありますか』という質問では、肯定的回答が8月と12月どちらも100%で、「夢中」に対して期待感をもっていることが分かった。特に「ある」と答えた教師は4割を超えており、期待感が高いことが伺える。期待感のある教師は、児童が自分の興味や関心に基づいて学びを進め、創造的に活動してほしいと考えていた。また、児童が自分でテーマを決めることで、主体的に学びを深めることができると考えている教師も多数いることが分かった。

授業後の教師の話合いでは、主体的に学びを深めるために、課題づくりを児童に委ねる大切さや、児童に対する教師の働きかけをブラッシュアップしていくことの大切さが話題となった。夢中になっている児童に対しての教師の介入は、全てノイズになりかねず、十分に検討する必要があると全職員で共有できたことも有意義であった。教師は「夢中」によって新たな授業観を獲得し、授業観の幅を広げることができた。

公開授業を参観した方からは、児童も大人も共に活動をする様子から、大人が知識をもっている存在ではないからこそ共創者の関係ができるのだという示唆をいただいた。



作成中の様子

(2) 「挑む」「伝える」「高め合う」三つの資質・能力の高まり

「夢中」単元終了後、児童にアンケートを行った。「今回の夢中を振り返って、三つの亀（三つの資質・能力）のそれぞれの点数は何点ですか。（満点は5点）」という質問に対しての平均点は、「挑む」4.4、「伝える」3.9、「高め合う」4.1となり、いずれも高い数値となった。どの児童も自分の活動と三つの亀を関連付けて振り返ることができた。7月に行ったオリエンテーションでは、「夢中」と三つの亀との関連性を教師から伝えた。また、創作活動の中では三つの亀の力を発揮している場面を教師が見取り全体に共有した。そのことで、実際に活動が進むと児童は三つの資質・能力を意識しながら好きなことに夢中になっていった。このような主体的な取組が、学年に関係なく作り方を聞いたり教えたりする姿や成果物発表会で主体的に質問する姿につながったと考える。



授業公開シェアリングの様子



成果物発表会の様子